

前号を読んで

大学文化の継承 戦略などと言わないで

浅野侑三

数理工学物質科学研究科教授

「世界に通ずる、通じない」といっても、その間にデジタル的な明確な区別がある訳ではなく、学生がより国際的であるかないかといったアナログ的なものである。従って前号において、色々な立場にある先生方が色々な角度から述べておられる事は全て正しい。語学はできる方が良い。留学の経験はあった方が良い。独自性を持ち、人に誇れる何かを持っている方が良い。等々。これらは全て良くできればそれだけ良い。中でも最も大切なことは、学生自身が、自由で広い視野で物が見える大学の文化に触発されて、異文化への好奇心を持つことではなかろうか。人は長い人生で何かを望み続けられれば大きな進歩があるものだ。

「戦略」という言葉には嫌悪感を感じる。この言葉は、企業などで比較的短期に利益をあげるための策略、といった意味につかわれることが多い。百年の計を持つてする教育とはあまり馴染まない言葉である。大

学の文化は短期のハウ・ツーもので出来るものではなく、それらが長年積み重なってできるものである。

大学が法人化して産業界の影響をより強く受けるようになった。ただ決して間違えてはならないのは、製品をつくるのと人を作るのとは全く異なるという事である。最も大きな違いは、タイムスケールであろう。まさかそんな事は無いと思うが、一部の企業がしているように、期末試験の最中に平気で内定した学生を自社に呼びつけるような、近視眼的で自己中心的な企業倫理で大学教育を見るような事があるとすれば、大変な過ちを冒すことになる。大学の文化は根底から枯渇し、大学は精神的に死人と同様の学生を社会に送り出すことになる。これは社会にとっても大学にとっても自殺行為である。

私の研究室で修士をとった女性が、就職して8年経った今、MBAをとるために英国に留学しようとしている。私の研究室は、前任者も私自身も外国でPhDをとった経歴があるため、比較的広い視野で物を見る雰囲気があったように思う。私自身は、これから正月休み返上で推薦状を7通書かなければならないので大変だが、誠心誠意書こうと思う。

(あさの ゆうぞう/高エネルギー物理)